

# 書窓

## Shoso

No.449

2022.10

太子町立図書館 編集発行

〒671-1561  
兵庫県揖保郡太子町鰯  
1310 番地 7

Tel (079)277-1580  
Fax(079)277-5684

### 子どもの本だな 107

このページは子どもたちにすすめたい本をとりあげています。本を選ぶときの参考にしてください。

#### かえるのいえさがし

石井 桃子・川野 雅代 さく  
中谷 千代子 え (福音館書店)

夏の間、毎日うたっていたカエルの親子。ふと気づくと、あたりはすっかり秋に。父さんガエルは急いで冬ごもりの穴を探しますが、遠くまでいっても見つかりません。そこで、母さんと子どものケロも一緒に、穴をみつけるまで、歩き続けることにしました。森のそばの暖かそうな穴には、大きなガマガエルがいてすきまがありません。木のかげの小さな穴にはトカゲがいて入れません。日の暮れるころやっとなのすみに大きな穴を見つけ、父さんガエルが「ごめん！ごめん！」とよびかけると、ざらり、ざらりという音がして、大きな蛇が顔を出しました。

ユーモアたっぷりな温かみのある絵が、カエルの親子の気持ちをよく表しています。がっかりしたり、喜んだり、ほっとしたり、子どもたちはケロと一緒に物語を楽しみます。読んでもらえば4歳から。(西村)

#### ホメーロスのオデュッセイア物語 上・下

バーバラ・レニオ・ピカード 作 高杉 一郎 訳 (岩波書店)

トロイア戦争が終結し、イタケー島の王オデュッセウスは、妻ペーネロペイアと息子が待つ故郷へ帰るために旅立ちました。ところが、一つ目の怪物や人を動物に変える魔女など、数々の困難に行く手を阻まれます。一方イタケー島では、ペーネロペイアを目当てに求婚者たちが館に入り浸り、その財産を食いつぶしていました。

ペーネロペイアは、消息の分からない夫を待ち続けましたが、ついにある決心をします。求婚者たちに、斜めに交差させて並べた斧の隙間を、強弓で射貫く競技を行わせ、成功者の元に嫁ぐというのです。ところが求婚者たちは、矢を射るどころか弓弦を張ることも出来ません。すると、客人として館に招かれていた老人が、いとも簡単に弦を張り、見事に斧の隙間を射貫きました。この老人こそ、求婚者たちと戦うために変装して戻ってきたオデュッセウスだったのです。

トロイア戦争の英雄オデュッセウスが、故郷を目指して難敵に立ち向かい、家族と再会するために奮闘する物語です。オデュッセウスの前に立ちはだかる試練は、彼の部下全員の命を奪う災難をもたらしますが、決して諦めずに戦うオデュッセウスの姿に胸が躍ります。12歳くらいから。(光藤)

#### <お知らせ>

##### ちいちゃい秋まつり

子ども向けに「ちいちゃい秋まつり」をひらきます。おみくじ、釣りあそび、弓矢などが楽しめます。

◎開催日：10月23日(日)  
(※雨天時は30日(日)に延期)

◎時間：10:15～12:00  
◎場所：図書館南側テラス

\*\*\*\*\*

##### 青空サイクル～ひと箱市～

読まなくなった本を持ち寄って古本市を開きます。

◎開催日：10月16日(日) (※雨天中止)

◎時間：10:00～14:00(本がなくなり次第終了)

◎場所：「ふるさと文化村」中庭

※本はすべて無料です。

※本を出したい方は、事前申込が必要  
です。詳しくは、太子町立図書館まで。

#### 10月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
<del>2</del>	<del>3</del>	<del>4</del>	5	6	7	8
9	10	<del>11</del>	<del>12</del>	13	14	15
16	17	<del>18</del>	19	20	21	22
23	24	<del>25</del>	26	27	28	29
30	31					

#### 11月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
		<del>1</del>	2	3	<del>4</del>	5
6	7	<del>8</del>	9	10	11	12
13	14	<del>15</del>	16	17	18	19
20	21	<del>22</del>	23	<del>24</del>	25	26
27	28	<del>29</del>	<del>30</del>			

▶ ×印は休館日 ※閉館時は返却ポストをご利用ください。  
(9/28～10/3は特別館内整理、10/12、11/4、11/24は祝日の振替、11/30は館内整理日)  
▶ 開館時間は10:00～18:00、金曜日は20:00まで開館

『さばの缶づめ、宇宙へいく 鯖街道を宇宙へつなげた高校生たち』 小坂 康之・林 公代 著

イースト・プレス 205頁 2022年1月刊 1,500円 (請求記号)667.9

2020年11月27日、宇宙飛行士の野口聡一さんが、ISS（国際宇宙ステーション）から投稿した1本の動画が話題となった。「大変優秀です！美味し〜い！」野口さんが大絶賛した日本宇宙食「さば缶」を開発したのは高校生たちだった。本書は、さば缶を宇宙へ届けるまでの14年間を追った記録である。

2001年、当時教育困難校だった福井県立小浜水産高校（通称「浜水」）に新米教師・小坂康之が赴任した。小坂は、浜水で作っているさば缶に、NASAが宇宙食を作るために開発した衛生管理手法「HACCP」を取り入れようと動き出した。2006年、認証を取得すると、生徒の1人が呟いた。「宇宙食、作れるんちゃう？」この一言から宇宙食開発が動き出した。

小坂はJAXAに直接連絡を取り、宇宙教育センターの岸詔子と出会う。岸は講演会のために来校し、宇宙での生活や宇宙食についてなどの話をした。「若狭の鯖街道を宇宙までつなげてほしい」岸の言葉が生徒や教師たちの心に火をつけた。開発を開始した生徒たちは、宇宙日本食の専門家にも話を聞き、試作を繰り返しながら次代に受け継いでいった。そんな中、学校の統廃合問題が起き開発は中断。その後、浜水は統合され、新しくできた若狭高校海洋学科の生徒により再開。調味液が飛び散らないよう適度な粘り気を出すのは、調味液に対して9%の葛粉だと突き止めた。また、宇宙での味覚の変化に対応する味の濃度を調節、大量生産用にレシピを作成、もつと軟らかくしてほしいという要望には地元の養殖サバを使うことで解決した。「鯖街道をISSへ！」を合言葉に300人以上の生徒がバトンをつなぎ、2018年11月、「サバ醤油味付け缶詰」が33番目の宇宙日本食として正式に認証された。高校生が開発した宇宙食が認定されたのは、世界初の快挙だった。

宇宙食開発は時間をかけて育てたかったと小坂は言う。夢を共有し、目標に向かって探求する過程を大事と考え、生徒たちに寄り添い支え続けた小坂と共に、高校生たちが苦楽を乗り越え、14年もの年月をかけ夢を実現させる姿に胸が熱くなる。中学生や高校生の人にも読んでほしい1冊だ。

(池之上)

10月	11月	10・11月の移動図書館（いずれも木曜日です）				
6日	3日	<b>塚森</b> 地域内 10:30～10:50	<b>沖代</b> コミュニティーセンター 11:00～11:20	<b>福地(三反長)</b> 地域内 14:30～14:50	<b>米田</b> 公会堂 15:00～15:20	<b>竹広南</b> 公民館 15:30～15:50
13日	10日			<b>原池団地</b> 公民館 15:00～15:20	<b>山田</b> 掲示板前 15:30～15:50	<b>原</b> 太田東地区農村交流センター 16:00～16:20
20日	17日	<b>広坂</b> 公民館 10:30～10:50	<b>上太田</b> 公民館 11:00～11:20		<b>太子ニュータウン</b> 公民館 15:30～15:50	<b>吉福</b> 公民館 16:00～16:20

**講演会「子育ての習俗にみる招福とまじないのデザイン」**  
 子どもの健康を祈る人形や玩具、魔よけのデザインなどについてお話を伺います。あわせて、「耳なし芳一」を琵琶で語っていただきます。

・講師：尾崎 織女さん  
 （日本玩具博物館学芸員）  
**大藪 旭晶さん**（琵琶奏者）

・日時：11月13日(日)  
 14:00～16:00

・場所：丸尾建築あすかホール ミニシアター  
 ・定員：70名（要申込）  
 ・申込：太子町立図書館  
 ※詳しくは、太子町立図書館まで。

地下水

毎月、月末を館内整理の日として、清掃や図書整理、職員研修などを行っている。9月の研修では『運命の騎士』（サトクリフ作 岩波書店）を課題図書にした。それぞれ読んで感じたこと、本の魅力、子どもたちにどんなふう薦めるか、などを語り合った。私は、前回読んだのは10年以上前だったのだが「こんな劇的なエピソードを覚えていないなんて！」と驚きながら読み始め、後半は次々と起こる事件に身も心も揺さぶられ、読み終えた後も、長らく気持ちは11世紀のイギリスに残ったままだった。あらためて、サトクリフの物語の力強さを実感した。この気持ちが続いているうちに、ローマンブリテン4部作再読に挑戦しなくては。

職員研修や読書会は、お互いの感想を語り合う場である。人とは違う感想も出せばいい。色んな感じ方を聞けば、自分の感じ方も広がるだろう。本を読んで感じたことを言葉にするということとは、自分の内面をさらけ出すことに近い。それが苦手な人もいるだろう。うまく言葉にできないこともあるが、そこは訓練と努力を積み重ねていくしかない。本の魅力を伝える仕事を選んだのだから。

(池田)